

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100086		
法人名	株式会社 マル若商店		
事業所名	グループホーム 円		
所在地	岐阜県多治見市小名田町3丁目89番地		
自己評価作成日	平成22年9月13日	評価結果市町村受理日	平成23年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2191100086&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2191100086&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年10月6日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、閑静な住宅街にあり公園も利用者さんが足で歩いても6~7分で、生活環境の良い場所にあります。理念である「地域の皆様と協力し合い、地域生活を通して入居者の健やかなる、心豊かな暮らし」を支援し、利用者さんの健康管理を基本に、利用者さん同士のコミュニケーションを重点にした月2回の外出を行っています。今後は、運営推進会議を充実させ、地域に溶け込んでいくと同時に、ご家族参加のレクリエーションを計画していきます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、市の郊外にあり、幹線道路から少し入った閑静な住宅地の一角にある。造りは2階建てで、法人の3部門の一つに位置付けられ、陶磁器関係やレストランと連携しながら、運営されている。昨年12月に開設して新しいが、経営者・管理者・職員が一体となり、利用者の望むケアを支援している。住み慣れた「地域の人々や家族と協力し合い、穏かに心豊かな暮らし」を送る事が出来るように、サービスの質の向上を目指して、ケアの実践に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の全体会議で確認し、玄関先と居間に理念を掲出しいつでも把握できるよう努めている。	地域の人々と交流を深めながら、「自分らしく生きがいのある暮らしを」を理念に掲げている。全体会議で理念の意義を確認・共有し、個々の能力を活かしながら、安らぎと生きがいのある暮らしを實踐している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設したばかりで地域交流はまだできていないが、散歩で近所を周る時には必ずスタッフから笑顔で挨拶をするよう心がけている。自治会にも加入を考えています。	散歩の行き帰りや外出時に、近隣の人々と日常的に挨拶を交わしている。経営者が、地域の区長をしており、町内行事には、積極的に参加している。ホームが行う祭りなどの行事には、近所の子供達や、地域の人達を招待し、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に加入する事をこれからの課題としてあげ、地域の人々とお祭りやイベントを通じて交流し、認知症について理解を深めて頂くよう努力をする。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を持った事で、近隣の方々との意見交流や様々な情報を取り入れられる為、今後とも会議を大切にサービスの向上に努めます。	会議は、開設から1回行われている。自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員・市担当者・学童保育代表・派出所・家族代表・住民代表・班長と多くの関係者が参加している。初回の会議であり、運営報告と、今後に向けた顔合わせの機会であった。	運営推進会議は、地域密着型サービスの画期的な制度であることを理解している。今後は、2ヶ月毎の開催が望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホーム内での相談事については、日常的に市へ相談・確認・指導を直接受けています。生活保護受給者の方も受け入れています。	市との連携は事務長を通して行われ、円滑な協力体制が出来ている。介護保険や医療に関する様々な相談など、日常的に意見を交換している。生活保護受給者の受け入れを話し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束については、研修会を行い、特に介護を始めたばかりの職員を中心に、機会あるごとに学習している。今後も常に取り組んでいけるよう話し合っていく。	身体拘束をしないケアについては、内容や弊害を、職員会議で周知し、拘束は行っていない。車椅子は、移動の手段としてのみ使用するなど配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については会議を設け、各職員の意識付けを行っている。		

岐阜県 グループホーム円

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後行政が主催する研修を終えた者から、全職員が理解できるように勉強会の場を持ちたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所に当たって施設内の詳しい内容を説明し、了承を得たのち契約を行っている。又、不明な点は随時説明できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ伝える機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議にて利用者やご家族の意見を取り入れられるよう接客をしている。又、直接申し上げられない方には、玄関先にご意見箱を設置し意見が聞けるよう努めている。	家族の意見・要望は、主として、面会時に聞いており、居室環境の改善についての要望があった。意見を引き出すための工夫は、さらに必要と感じ、検討している。	ホームの行事等で、家族が集まりやすい機会を設けたり、家族へ個別に送付する便りにアンケート欄を設けるなど、利用者・家族の意見や要望を取り入れる工夫に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ミーティング会議を行い、各利用者の状態やホームの運営に対して職員の意見を取り入れ全員で考えられるような場を設けている。	定例の会議で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。職員からは、運営者、管理者、職員間のコミュニケーションを良くしたいとの提案がある。意見は、経営会議で取り上げ、ホーム運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も常に朝礼に参加して楽しく働ける職場づくりに日々勤めています。管理者は、体力や年齢を考慮した勤務体制作り心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での勉強会や外部研修にも少しずつですが参加しています。また、その報告会等を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オープンして間もないため、同業者との交流はありませんが、今後他のホームへの見学を計画し、サービスの質の向上に勤めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声かけや見守りはもちろん、本人の声に耳を傾け安心を確保するため常に職員が努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面談を生かし、利用者の現在に至るまでの生い立ちを詳しく聴いた上で、困っていることや不安に思っていることをよく聴き関係作りに勤めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の希望、本人の希望や状態をよく観察し、本人にとってどうすることが一番いいのか、どう支援すべきかを見極める努力を常にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護される」「介護する」という考えではなく、利用者には少しでも「一緒に暮らす我が家」という考えを持って頂けるよう、役割や生きがい作りを考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、本人とご家族がゆっくり話ができるよう居室内にて場を設けている。今後はご家族も参加して頂ける「夏祭り」などの行事を予定していきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族が希望される場合、共に外出される機会を設けている。今後はご家族はもちろん、学生時代の友人や親交が深かった知人の方も、更に来訪しやすい開放的な環境作りをしていく。	知人や昔の学友、親戚等が訪問し、お茶や食事を一緒にし、馴染みの関係を支援している。また、行きたい場所や馴染みの食堂、行きつけの美容院等へは、家族の協力を得て関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立や対立しないよう職員が関係作りに努めている。利用者一人ひとりの個性や性格を把握し利用者同士が自然に挨拶できるよう声かけを中心に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ転居されたときなど、必要なときはご家族に了解していただき、施設内での情報を開示するなど、退居先でご家族や利用者が混乱しないよう努めている。入院中の病院へお見舞いに行くなど、ご家族との関係を大切に、連携も断たないよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや困っている事等に耳を傾け、何でも言って頂ける関係作りや、日々快適な環境で暮らして頂けるよう努めている。生活の中で希望されたことを要望ノートに書きとめ、できる限り希望に沿えるようにしています。	利用者の姿や様子から、つぶやきや要望・希望等を書きとめている。ホーム独自の「要望ノート」に記録し、全職員で、把握している。新たに気付いた事は、随時、書き込み、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から利用者の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境など、詳しく聞き取り情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの心身状態やその人らしい生活パターン、そして残された能力を把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師や担当看護師の意見を参考に、利用者・ご家族の希望を計画に反映し支援に努めています。	かかりつけ医や看護師から身体面の意見や利用者家族の意見・要望を取り入れ、また、要望ノートを参考にした介護計画を作り、ケアに反映している。必要に応じて柔軟に介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアや気づきの情報を共有するために、モニタリングにも使用している、個別ノートを全職員が読んで利用者の情報を把握し、利用者個々に対し統一したケアができるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の通院介助や付き添いの支援を行っている。医療連携体制をとっており、看護師による健康のチェックや相談も行い、緊急には連絡し、かけつける体制もとっている。		

岐阜県 グループホーム円

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これからの課題であり、暮らしの中にボランティアや外部交流等地域との関わりが持てるよう計画を考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回かかりつけ医の往診を受け、健康への管理体制をとっている。異常時や薬等の変更時には、本人・ご家族にも話をして了解が得られるよう努めている。	月に2回、かかりつけ医の往診があり、利用者の健康状態の管理を受けて、利用者や家族の安心が得られている。また、往診で対応出来ない専門科医への通院は、家族が対応している。家族の都合が悪い時は、職員が付き添い、受診対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による健康相談や健康管理を実施している。、各利用者にも異常が発生したときは、看護師にすぐに連絡し必要な時は、かかりつけ医の受診や入院措置など迅速な対応を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族の同意を得て利用者が入院した際は、看護師が立会い、ご家族の良き相談者となっています。勿論病院関係者と相談し早期退院に向け支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、重度化した場合における医療体制指針を説明し、承諾を受けている。随時、主治医とご家族との今後の方向性を話し合い、グループホームでの生活を考えて頂く場を持つようにしている。	重度化した場合の医療体制指針を、ホーム入居時に説明し、家族の同意を得ている。指針では、ホームで出来ることを段階的に示し、主治医、家族と話し合い、他の施設に移ることを方針にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応を各階に貼り出し、迅速な対応ができるようにしている。又、消防署の協力を得て救急救命法やAEDの研修を実施し、緊急時に対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと緊急マニュアルを作成し、利用者も参加した消防訓練を実施しています。地域との協力体制については、運営推進会議にて災害時の協力をお願いしていきます。	消防署との緊急通報ボタンを設置して、年に2回の避難訓練、利用者と共に消火器の使用法を訓練している。また、ホームの建物外への誘導法も職員間で自主的に行っている。	災害に備え、地域の協力体制をどのように築くのか、関係者と協議中であり、運営推進会議で話し合い、具体化に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護職が初めての職員が多く、利用者への言葉遣いには気をつけて頂くよう心がけている。間違えた言葉遣いをした職員には利用者の立場に立った声かけをするよう注意し改善に努めている。居室に入る際はプライバシーを尊重し、無断入室しないよう心がけている。	日頃から、言葉に対しては、利用者の立場になり、人生の先輩に対する言葉遣いになるよう心掛けている。部屋へは、無断で入らないように、入室時の声かけにも留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が一方的に利用者指示するのではなく、何がしたいのか利用者本人の気持ちを尊重した支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、日常的なスケジュールや決まりを優先させることなく、常に利用者の立場に立って、同じ目線で、個々に合わせた支援をしている。自室に長時間いる利用者にはこまめに訪室し、声かけを中心とした支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度訪問理美容サービスで、本人の希望で、髪染めやカットをしている。入浴日以外にも毎日、爪や髭・髪、着衣が乱れていないか確認している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者全員参加の外食会を実施しています。ホーム内でも利用者を交えた調理やおやつ作り等を行い、食べる事への意欲や生きがい作りを行っている。又、食事の準備や片づけも手伝って頂いている。	利用者の希望に添った献立にし、食材を選んでいる。肉と魚を交互にしたり、近所からの差入れの野菜もうまく活用している。手作りのおやつも楽しみの一つにして、食べる事への意欲や生きがい作りに役立っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の健康状態や歯の状態に合わせて食事形態を変更し、バランスの良い食事を摂る事を心がけている。水分に関しては、テーブル上に常にお茶を設置し、水分を摂って頂く対応をしている。食事量の記入や食事介助・見守りも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底し、歯に物が詰まる方には歯間ブラシや糸ようじ等を使用し清潔を保つよう心がけている。イソジンにて舌のケアも行い、起床時・寝前のイソジンうがいも行っている。又夜間義歯は預かり、毎日洗浄している。		

岐阜県 グループホーム円

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立した方も介助が必要な方も、排泄に関しては見守りを行っている。排泄パターンを把握しおむつの使用量軽減に努めている。	自宅では、紙パンツを使用していた利用者が、職員の適切な排泄誘導で、布製の下着を使用する事が出来るようになった。また、排泄パターンを把握する事で、紙パンツの使用量を軽減し、自立支援を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用いて各利用者の排便を把握し、便秘が続く方に対しては看護師を通して医師と相談のうえで下剤を使用し、排便に心がけています。朝食時にはヨーグルトを提供、腸の蠕動運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番等は、できる限り本人の希望に沿う様にしている。又、男性職員も介助にあたる為、同性職員を希望される場合は本人の希望に沿う様変更している。	入浴は基本的に週に2回であるが、希望や汗をかいた日は、柔軟にシャワー等で対応している。また、皮膚の状態等によっては、週に4回対応したケースも見られる。利用者の希望により、同性の介助に変更が出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の体調に合わせて、休息はとって頂くようにしている。夜間安眠できない方には、日中に運動やレクリエーション等を取り入れ、日中と夜間のリズムをつけ安眠に繋げるよう心がけたり、話し相手になり安心して頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は医療ファイルを確認し、全職員が把握できるように努めている。服薬時には、日付や氏名、時間や錠数、確実に口の中に入った事を確認ミスがないよう徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者がホーム内での生活に生きがいを見つけて頂けるよう役割を作って、少しずつ参加して頂くようにしている。又、本人が得意とされている役割を継続できるよう気づきを大切にしながら支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、主に午前中近隣の公園まで散歩に出掛けたり、ドライブや喫茶店、買い物などの外出支援を増やしている。利用者の希望をできるかぎ叶えるようにして、月に一度ですが外食と行楽行事を設けている。	近隣に、公園を廻る散歩コースがあり、日常的に出かけている。希望者には、ドライブを兼ねて、喫茶店や外食等、月5回の外出を支援している。また、法人の年間行事として、花見や紅葉狩りにも出かけている。	



岐阜県 グループホーム円

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族了承の上で金銭管理は職員が行っている。一部の利用者のみ強く希望されているので、その方の精神面の安定を図る為、少額のみ個人の財布にて所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が書いた絵手紙を、毎月家族宛の請求書に同封してしている。年末に向けて各利用者がご家族宛の年賀状を出せるよう支援していく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはソファを置き、居室入り口には暖簾をかけ、利用者がゆったりとした気分で過ごせるようにしている。居間には、1階2階それぞれ壁に季節の花や手づくり作品が飾られ、大きな窓からの景観には、四季が感じられる。ゆったりとした空間の中で、利用者それぞれが、和やかに過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には、主に食事をするテーブル・椅子やリラククスして頂く為のソファ等も設置し、利用者同士が自由に過して頂けるよう環境を考えている。中には、利用者の居室にてTVを見たり談笑されたりする方もみえる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者にとってなじみの家具や物があれば居室に配置できるようにしている。又、仏様やご家族様の写真等置かれる方もあり、その人らしい「自分の家」になるような空間作りを支援している。	各居室には、個性的な色合いの暖簾が掛けられ、自室と認識できるようにしている。使い慣れた、整理ダンス・小物類等、馴染みのものをさり気なく配置し、安心できる生活空間にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー構造で利用者の身体能力に合わせて自立して生活ができるよう環境面で配慮しています。出来る事・出来ない事を個人ノートに記入し、「出来ない事」よりも「出来る事」を見出し、本人の残存能力や生活の生きがいを保持して頂けるよう努めている。		